

## 志賀裕春氏旧蔵小梅『雑記』

今、話題の川合小梅は無類の記録魔であったことは、よく知られていることですが、彼女の日記には下書きとも取れる『雑記』と題された写本が複数あったことは、余り知られていないのではないのでしょうか。それが此度、「小梅日記を楽しむ会」を通じて当館に寄託されました。そこで、今回は、元治二年から、写年未詳のものを含めて、明治一七年に至る、現存している『雑記』九冊を一挙に展示してみようと思います。これらの『雑記』は小梅の曾孫にあたる故志賀裕春氏が大切に保管・整理され、死の前に御息女雑村悦子氏に託されたものです。

各冊の概略は次の通りです。

- 1 元治 二年 「日本諸国ことば詞いつかひ」「当流とうりゅう躰しつ方かた五十一箇條」ほか『近代きんだい世事談せじだん（本朝世事談綺）』からの抜き書きほか。
- 2 慶応 三年 伴蒿蹊かんでんこうひつ著『閑田耕筆』からの抜き書きほか。
- 3 写年 未詳 了諦かきゅうよういわだん著『火急用意和譚』の写しほか。
- 4 写年 未詳 伊達千広等の肅清時に撮かれた噂や俗謡等の記録ほか。表紙に「丙午ひのえうま」とあるので、志賀氏はこの成立を弘化三年と断定されていますが、その年にはまだこれらの肅清劇は起きていないので、写年未詳としました。尚、この『雑記』は全一六丁の内、一四丁までが千広等の肅清関係記事で占められており、小梅のこの事件に対する並々ならぬ関心が見てとれます。
- 5 慶応 元年 山崎美成ていせいきだん著『提醒紀談』からの抜き書きほか。
- 6 明治十四年 北畠親房著『神皇正統記』ほか諸書からの抜き書きほか。
- 7 明治十五年 「忠臣蔵実記」及び新聞記事の抜き書きほか。
- 8 明治十七年 曲亭馬琴著『里見八犬伝』第六輯五下の写しほか。
- 9 写年 未詳 『画筌がせん』『画論伝授秘事口訣がろんでんじゅひじくけつ』『画具之製法極秘伝えのぐのせいほうごくひでん』等、絵画に関する様々な写しほか。

志賀氏旧蔵史料の中には、ここに展示しているものと同類と思われる『雑記入交』や『諸書雑記』のほか、『異国物語（漂流人善助聞書とも）』、『環海異聞』（欠号あり）等外国事情を伝える写本も残されています。これは、小梅の視野と関心が国内に止まらずいかに広がったかを物語る好個の史料といえるでしょう。

今回は、雑村氏が保存されていたものの全容をご覧いただくために九冊をまとめて展示しましたが、今後はこれらの『雑記』に写し取られた内容を、順不同にはなりますが、紹介していく予定であります。ご期待ください。

（文責：須山 高明）